

NO,12

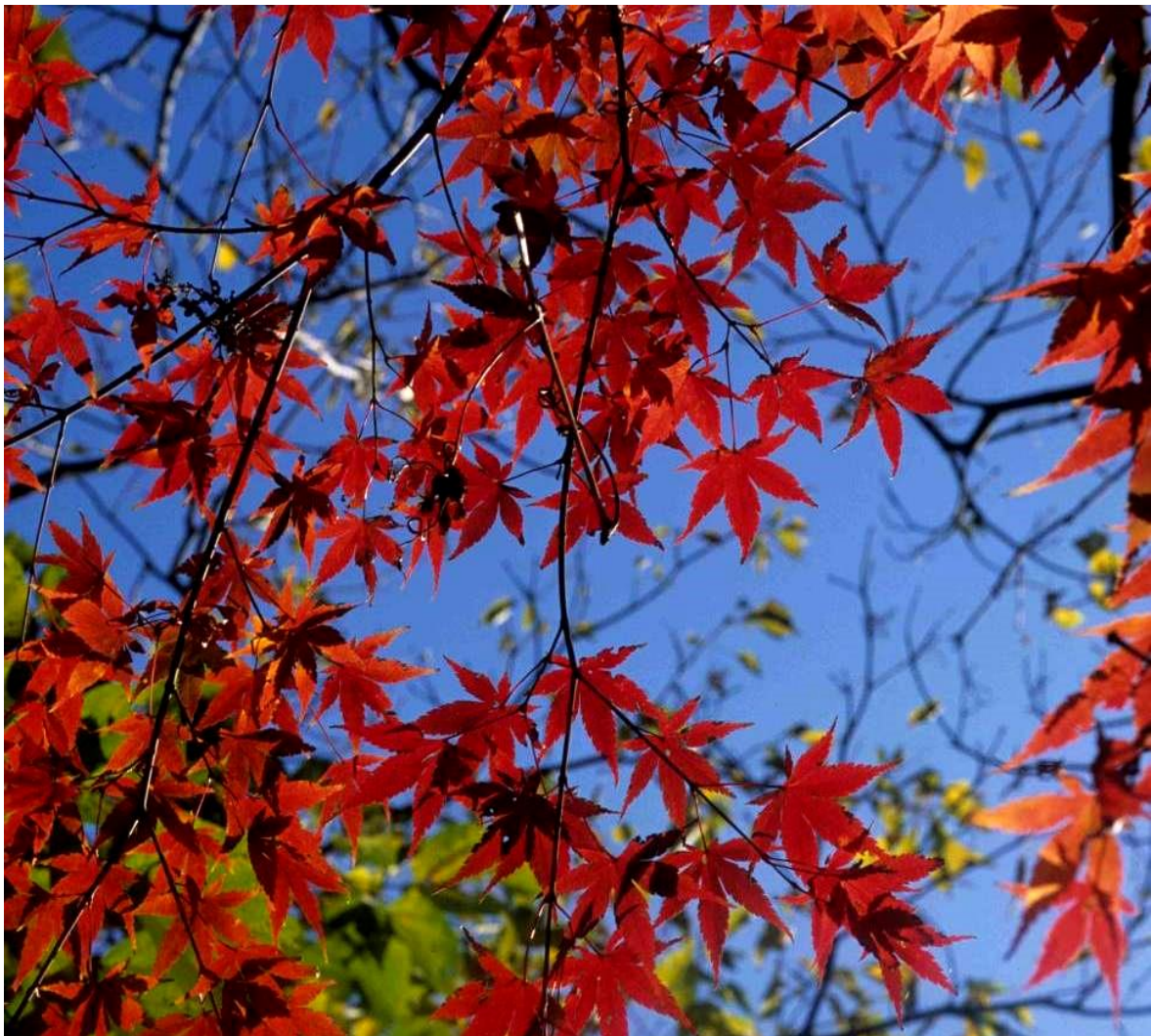
## イロハモミジ

(カエデ科)

公園や家の周りに植えられているモミジの多くは、このイロハモミジです。本州から九州、四国にかけて自生していますが、本州では太平洋側に多く島根県には自生していません。島根県内の里山に自生するモミジとしては、コハウチワカエデやオオモミジがよく見られます。

高さはふつう10～15mほどですが、大きいものは30mほどに生長することもあります。紅葉が美しいことなどから、古くから各地に植えられ、紅葉で有名な鱈淵寺のモミジも、多くはこのイロハモミジです。また、このイロハモミジから多くの園芸品種が作られています。

イロハモミジの名前は、5～7裂する葉の裂片を「いろはにほへと」と数えたことから名前が付けられました。ちなみに「モミジ」は、紅葉（もみじ）することから名付けられています。別名をタカオカエデと呼ばれており、この名は京都の高尾山にちなんだものといわれています。ちなみに「カエデ」とは「蛙手」のことで、カエデのなかまの葉の切れ込みが水かきのあるカエルの手に似ていることに由来したものです。



▲ イロハモミジの紅葉